

短評

自民党本流と保守本流

田中 秀征著

かつて新党さきがけの代表代行を務めた著者は、戦後の保守政治を歴史観や憲法観によって2つの流れに区分する。自民党にはタカ派色の濃い「自民党本流」と中道を意識する「保守本流」が同居し、本来は分かれて競争関係に立つ方が有益だと説く。日本でも細川連立政権や民主党政権が誕生して二大政党制が定着するかに思えた時期があった。安倍1強と弱小野党という今の対立構図をどう変えていくかは重要な論点だ。(講談社・1600円)